

CASBEE-建築(新築)2016年版
 くみやま岡本病院整備事業

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0f)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q1 建築物の環境品質									3.2
G1 室内環境									3.3
1	音環境			3.3	0.15	3.2	1.00		3.3
1.1	室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2	遮音			3.8	0.40	3.6	0.40		
	1 開口部遮音性能	T-2以上		5.0	0.40	5.0	0.30		
	2 界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30		
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	3.0	0.20		
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	0.20		
1.3	吸音			3.0	0.20	3.0	0.20		
2	温熱環境			2.6	0.35	2.6	1.00		2.6
2.1	室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50		
	1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57		
	2 外皮性能			3.0	0.25	3.0	0.43		
	3 ソーン別制御性			3.0	0.38	-	-		
2.2	湿度制御			1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3	空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3	光・視環境			3.0	0.25	3.8	1.00		3.1
3.1	昼光利用			4.2	0.30	4.2	0.30		
	1 昼光率	共用部2.5%以上 病室1.25%以上		5.0	0.60	5.0	0.60		
	2 方位別開口			-	-	-	-		
	3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2	グレア対策			2.0	0.30	3.0	0.30		
	1 昼光制御			2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3	照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4	照明制御	ベント単位の照明制御ができる		3.0	0.25	5.0	0.25		
4	空気質環境			4.5	0.25	4.6	1.00		4.5
4.1	発生源対策			5.0	0.50	5.0	0.63		
	1 化学汚染物質	内装材はF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用+VOCにも配慮		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2	換気			3.5	0.30	4.0	0.38		
	1 換気量	30m ³ /h人以上		4.0	0.50	4.0	0.33		
	2 自然換気性能	自然換気有効開口面積1/10以上		3.0	-	5.0	0.33		
	3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3	運用管理			5.0	0.20	-	-		
	1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-		
	2 喫煙の制御	全館禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能					0.30				3.6
1	機能性			3.9	0.40	4.4	1.00		3.9
1.1	機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60		
	1 広さ・収納性	個室10m ² 以上多床室8m ² 以上		3.0	-	5.0	1.00		
	2 高度情報通信設備対応			-	-	-	-		
	3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-		
1.2	心理性・快適性			5.0	0.30	3.5	0.40		
	1 広さ感・景観	天井高2.5m		-	-	4.0	0.50		
	2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保		4.0	-	-	-		
	3 内装計画	インテリアバースによる内装計画の事前検証をしておく		5.0	1.00	3.0	0.50		
1.3	維持管理			4.0	0.30	-	-		
	1 維持管理に配慮した設計	外部に露出する金属部にメッキ処理をしている		4.0	0.50	-	-		
	2 維持管理用機能の確保	清掃用資材を保管するスペースの設置をしている		4.0	0.50	-	-		
2	耐用性・信頼性			3.1	0.30	-	-		3.1
2.1	耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-		
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-		
	2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2	部品・部材の耐用年数			3.5	0.30	-	-		
	1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-		
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ステンレスダクトなど長寿命化を図っている		4.0	0.10	-	-		
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
	6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-		
2.4	信頼性			3.2	0.20	-	-		
	1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-		
	3 電気設備			3.0	0.20	-	-		
	4 機械・配管支持方法	耐震クラスA		4.0	0.20	-	-		
	5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.5	0.30	3.6	1.00	3.5
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	4.2	0.50	
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上 ✓	5.0	0.60	5.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.13 ✓	4.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	—	3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.2	0.40			
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20			
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20			
	3 電気配線の更新性	ケーブルラック方式とし維持管理がしやすい ✓	5.0	0.10			
	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10			
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20			
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20			
Q3	室外環境(敷地内)		—	0.30			2.7
1	生物環境の保全と創出	—	2.0	0.30			2.0
2	まちなみ・景観への配慮	—	3.0	0.40			3.0
3	地域性・アメニティへの配慮	—	3.0	0.30			3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50			
	3.2 敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50			
LR	建築物の環境負荷低減性		—				3.3
LR1	エネルギー		—	0.40			3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm0.85	4.5	0.20			4.5
2	自然エネルギー利用	太陽光パネル利用量が15MJ/㎡・年以上	5.0	0.10			5.0
3	設備システムの高効率化	—	2.4	0.50			2.4
4	効率的運用	—	3.5	0.20			3.5
	集合住宅以外の評価		3.5	1.00			
	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50			
	4.2 運用管理体制	エネルギーの運用管理体制が組織化されている	4.0	0.50			
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング	—					
	4.2 運用管理体制	—					
LR2	資源・マテリアル		—	0.30			3.5
1	水資源保護		3.4	0.20			3.4
	1.1 節水	節水コマ+節水型便器	4.0	0.40			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	—	3.0	0.60			
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70			
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30			
2	非再生性資源の使用量削減		3.7	0.60			3.7
	2.1 材料使用量の削減	—	2.0	0.10			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	岩綿吸音板 塩ビシート 地域産木材	5.0	0.20			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロア LGS	5.0	0.20			
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20			3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材種別1つ	4.0	0.30			
	3.2 フロン・ハロンの回避	—	3.0	0.70			
	1 消火剤	—					
	2 発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50			
	3 冷媒	—	3.0	0.50			
LR3	敷地外環境		—	0.30			3.2
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率を低く抑えている ✓	3.3	0.33			3.3
2	地域環境への配慮		3.1	0.33			3.1
	2.1 大気汚染防止	—	3.0	0.25			
	2.2 温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制	—	3.7	0.25			
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25			
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25			
	3 交通負荷抑制	適切な量の駐車場の設置	5.0	0.25			
	4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量を推計している	4.0	0.25			
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33			3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
	1 騒音	—	3.0	0.33			
	2 振動	—	3.0	0.33			
	3 悪臭	—	3.0	0.33			
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40			
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70			
	2 砂塵の抑制	—	1.0				
	3 日照障害の抑制	—	3.0	0.30			
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20			
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの一部を満たし広告物照明なし	5.0	0.70			
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30			

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	-	-	○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0		○	○	○	○	○	○	-	○		○			
1.3.2 維持管理用機能の確保	9.0		○	○	○	○	○	○				○	○	-	○
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-							
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	-	-	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	2.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-											
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-								
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	-	3.0	-	-	-	1.0	2.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0		-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 昼射遮断及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標		窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)	
Q1 室内環境		U値(W/m ² K)		窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -	
2.1.3 外皮性能		住戸部分		窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -	
3.1.1 昼光率		昼光率		0.0%	
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率		0.0%	
Q2 サービス性能		執務スペース		0.0㎡/人	
1.1.1 広さ・収納性		病床		0.0㎡/床	
1.1.2 高度情報通信設備対応		コンセント容量		0.0 VA/㎡	
1.2.1 広さ感・景観		天井高		2.5 m	
1.2.2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース		0.5%	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定耐用年数		30 年	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔		0 年	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔		0 年	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		想定必要間隔		0 年	
3.1.1 階高のゆとり		階高		0 m	
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率		0.0%	
3.2 荷重のゆとり		床荷重		- N/m ²	
Q3 室外環境(敷地内)		外構緑化指数		22%	
1 生物資源の保全と創出		建物緑化指数		0%	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率		56%	
LR1 エネルギー		水平投影面積率		1%	
1 建物外皮の熱負荷抑制		地表面対策面積率		13%	
2 自然エネルギー利用		舗装面積率		5%	
LR2 資源・マテリアル		BPI/BPI _{in}		0.85	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		断熱等性能等級		対象外 相当	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		自然エネルギー直接利用量		35.42 MJ/年㎡	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		採光を満たす教室数		0.0%	
3.2.1 消火剤		通風を満たす教室数		0.0%	
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		通風を満たす住戸数		0.0%	
3.2.3 冷媒		BPI/BPI _{in}		非住宅 0.92 住宅 -	
LR3 敷地外環境		太陽光		.0kW	
2.2 温熱環境悪化の改善		太陽熱等		.0kW	
		蓄電池		.0kW	
		雨水利用率		0.0%	
		特定調達品目		塩ビシート エコマーク商品 岩綿吸音板 自治体指定の特定品目等 地域産木材	
		使用比率		0.0%	
		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
		見付面積比		130% 隣棟間隔指標Rw 1.18	
		地表面対策面積率		12.9%	
		屋根面対策面積率		0.0%	
		外壁面対策面積率		0.0%	
		見付面積Sb		910㎡	
		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		66 m	
		基礎高さHb		10.58 m	
		緑地		200㎡	
		水面		㎡	
		保水性対策面		300㎡	
		高反射対策面		200㎡	
		再帰性反射対策面		㎡	